

令和元年度 第2回三重県河川整備計画流域委員会 議事録

日時：令和元年9月2日（月）

14時30分～16時00分

場所：JA 三重健保会館 3階大研修室

1. 開 会

2. 主催者挨拶

3. 議 事

宮川水系（指定区間）の河川整備計画について、以下のとおり議事を行った。

委員：宮川に対する内水氾濫、汁谷川の外水氾濫、汁谷川の内水氾濫とあるが、そのうち宮川に対する内水氾濫、汁谷川の外水氾濫が深刻であるから整備計画で対策を立案し、汁谷川の内水氾濫については伊勢市の方で対処するという理解で良いか？

事務局：河川管理者としては、宮川に対する内水氾濫、汁谷川の外水氾濫を対象に整備を行い、汁谷川の内水氾濫については伊勢市と連携して行っていく方針です。

委員：汁谷川の外水氾濫と言っても、汁谷川の水位が上がった時には、まわりで内水氾濫が生じていると思われる。内水氾濫と外水氾濫が同時に発生する状況もありうる。宮川の水位が上がった場合には、宮川が外水氾濫を起こすこともある。その辺が混乱してしまうので、場合分けを汁谷川の内水氾濫・外水氾濫だけにすると分かりにくい。水門を閉めた状態や宮川の水位が高い状態で、整備計画流量が発生することもある。整備について水門閉鎖時の内水と水門開門時の外水に分けて説明しているが、現象としては2つだけではない。

事務局：実際に起こる状況を詳細に場合分けすることは難しいところです。河川管理者が対応すべきケースである水門閉鎖時と水門開門時等を想定しています。

委員：計画規模について、同じ河川で外水と内水の2つの確率規模があるので、分かりづらい。水門が開いていれば外水として1/30まで対応できるが、閉まっている場合は、内水としてポンプ排水による $W=1/10$ しか対応できないということをはっきりしておいた方がよい。住んでいる人にとって、1/30なのか、1/10なのかは、大きな問題であるため、しっかり説明する必要がある。

事務局：実際に浸水被害が発生しているのは水門の閉門時であり、地域住民の方々に対しては、水門が閉まった時の内水に対する確率規模である $W=1/10$ で説明します。

委員：汁谷川上流の森林の手入れが悪いと流木が発生し、災害につながる可能性がある。
単に環境面での植生を確認するだけでなく、そういった治水から森林管理状況も把握して検討してほしい。九州・中国地方の洪水では流木が被害を助長したケースもある。宮川水系でも流木による問題が発生する可能性があるため、そういった視点での調査も必要である。

委員：P.24 土地利用が H3 から H26 にかけて森林の割合が増加しているが、耕作放棄地に植生が繁茂し森林としてカウントされているのか、森林が増えている現状があるようには思えない。

事務局：航空写真等からの判別なので、耕作放棄地に植生が繁茂したことにより森林としてカウントされたものかと考えます。

委員：P.31 宮川から勢田川への分水路があると思うが、流量が小さいことから、流量配分図には記載されていないのか？

事務局：勢田川の水質浄化のために分水しており、流量も小さいため記載されていません。

委員：外水氾濫対策である特殊堤（パラペット）は左岸だけが整備される予定だが、右岸側の住民の了解も得られるように、意見聴取・説明を行っていくべきである。

事務局：分かりました。

4. 閉 会